岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和７年１月７日（火）　第１００号

大樹のこころ

スクールカーストの打破

　新年、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。新しい年を迎え、大樹寺小学校の教職員一同、より良い学校にしようとやる気に満ちています。新年のスタートに際して、嬉しい出来事が２つありました。一つ目は本日の始業式の様子を NHK が取材に来てくれたことです。県下の学校で始業式が行われていますが、取材対象として本校が選ばれました。これも家康公ゆかりの学校だからでしょうか。式の様子や６年生児童へのインタビューなどが撮影され、子供たちの前向きな姿を紹介していただくことができました。もう一つが、本通信が１００号の節目を迎えたことです。新年に、区切りの号を迎えることに不思議な縁を感じ、嬉しく思っています。これからも学校の様子をお届けしたいと考えています。

　さて、ここ数年、NHK 大河ドラマ「どうする家康」の放映によるマスコミ取材、開校１５０周年記念式典の開催、中校舎大規模改修・南校舎エレベーター設置と１年に１回ビックプロジェクトがありました。改修工事も間もなく終わる令和７年は、落ち着いた１年に…と言いたいところですが、そうはいきません。１０月２９日（水）に市委嘱の研究発表会が行われるからです（現時点での予定）。この研究発表会に向けて、本校独自の研究理論の構築と実践が進められています。

　時々「スクールカースト」という言葉を耳にします。学校内格差とでも言うのでしょうか。自分はこの「スクールカースト」という言葉が嫌いです。昔からこれを打破したいと思い、どの子も活躍できる学校にしたいと願ってきました。けれど実現するのはなかなか難しい。体育的行事や学芸的行事を行えば、その分野に長けた子が活躍します。部活動でも同じです。どうしても目立つ子とそうでない子が出てきてしまう。これを何とかしたいと考えていました。

　そこで浮かんだのが授業を活躍の場にするという考えです。「え？おかしい。授業こそ学習の得意な子とそうじゃない子との間に違いが生まれてしまうのでは」といった声が聞こえてきそうです。確かに従来の授業形式ではそうでしょう。これまでの授業は子供たちに「正解」を求めてきました。正解を求められると学習の得意な子の独壇場です。ここにメスを入れることにしました。正解を求める授業からの脱却です。本校では、子供たちに正解を求めずに「どう思うか」と問いかける授業を展開しています。「どう思う」には正解がなく、その子の発想・感性が認められ全ての子供が気楽に意見を述べることができます。思わぬ子の思わぬ発言から、学習に広がりが見られることもあります。そして子供の考えが集まっていくと、不思議なことに学習の目標に迫っていくことができるのです。つまり学習の得意な子だけでなく、多くの子が授業で活躍できるようになるのです。本校の授業では、スクールカーストはありません。どの子の意見も尊重される公平な学びの空間が保障されています。研究主題は「DJ 学習でみんな学びの主人公」。誰もが主人公になれる授業づくりに向けて、今年も邁進していきます。